





**Rotary**

# 川崎大師ロータークラブ 週報

会長 炭谷 博功  
副会長 矢野 清久  
幹事 秦 琢二  
SAA 奥山 啓寛

例会日:毎週水曜日 PM12:30~  
 例会場:大本山川崎大師平間寺信徒会館  
 事務局:〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F  
 Tel.044-277-7569 Fax.044-288-8550  
 URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail:daisi-rc.1973@air.ocn.ne.jp

第2344回 (本年度 第21回) 例会 令和5年1月25日 一晴一

●司 会 横山俊夫副SAA



斉 唱 「四つのテスト」 須山文夫ソングリーダー



●点 鐘 炭谷博功会長



卓話者紹介 炭谷博功会長

川崎市立南大師中学校 特別活動主任 矢坂健太郎様  
 「南大師中 SDGs 特別授業・関連学習の取組」





会長報告 炭谷博功会長

①公益財団法人ロータリー日本財団より確定申告用寄付金領収書が送られてきました。本日ポストイングさせていただきました。本領収書は再発行されませんので、取り扱いにはご注意ください。

幹事報告 秦 琢二幹事

掲示物：

①神奈川赤十字センターより1/4の献血活動に対しての御礼状が届いております。

回覧：

- ①50周年行事の出欠
- ②他クラブの例会案内、週報

ポスティング：

第7回臨時理事会議事録・臨時理事会議事録

出席報告

早坂清裕出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2344回	43	39	23	16	58.97%
2342回	43	38	26	12	68.42%
前々回の修正 メークアップ 3名			修正出席率		76.31%

メークアップ

林 鶴会員、内田省治会員、宮崎真一会員



スマイルリポート報告

矢野清久副会長



須山文夫会員

本日所用により早退いたします。

檜山雄彦会員

妻の誕生日に素敵なお花をありがとうございました。とても喜んでおりました。

秦 琢二幹事

矢坂健太郎先生、本日の卓話 よろしくお願い致します。

炭谷博功会長

寒波襲来、健康管理に充分留意して下さい。

本日のニコニコのテーマ

「矢坂健太郎先生、  
本日の卓話 宜しくお願い致します。」

横山俊夫会員

平位 武会員

牛山裕子会員

鈴木幹久会員

星野祐治会員

矢野清久副会長

野澤隆幸会員

檜山雄彦会員

布川 浩会員

沼田直輝会員

石渡勝朗会員

早坂清裕会員

委員会報告

●50周年実行委員会 行事委員会 布川 浩会員  
2/24（金）ウエルカムパーティと2/25（土）創立50周年

## 委員会報告

## ●国際奉仕委員会 磯田 稔委員長



姉妹クラブの件で最初に担当させてもらったので、相手から返事を頂いている分についてここで引継ぎをさせていただきます。

今回は6名いらっしゃいます。女性が2名、パイプ役をしてくださっているそんくよう先生と姉妹クラブを提携したときの会長ていじょんさん来ます。次年度の会長きむじょんす氏、現在の会長を含め6名がきます。ホテルの問題がありました事務局でホテルを手配しているということでした。ここまでが国際奉仕委員会 姉妹クラブとしての報告です。これ以降は50周年委員会に引継ぎをしたいと思います。

ここで提案をさせていただきたいと思います。毎回、周年記念行事を行う毎に問題が生じて、魅力ある人たちが退会してしまいます。この問題の一番大きな齟齬は理事会と委員会の連絡不足に在るのでは無いかと思います。周年委員会だけが独自に判断して進んでいってしまいフィードバックをしてきていないと思います。例会の時にでも現在の進捗状態でも発表してくれば皆が一丸となっていく気がしますが、盛り上がりを感じられないです。周年行事といっても他人事のような気がして感じられないのでクラブ全体としての雰囲気を感じ上がっていないと思います。これを改善するためには例会でも理事会でも密にさせていただきたいと思います。

姉妹クラブに対する扱い方でも事務的に進めているような気がしてならないです。今回国際奉仕委員会なので、姉妹クラブとも仲良くしなければいけないとおもうので責任があると思い考えていましたが、これも考え違だったので姉妹クラブの対応に関しても50周年委員会がやるということに気がつかなかったので動いていましたが、気がついて50周年委員会にお任せしようと思いましたが、あちらでも窓口がいくつも出来たのでは困ると思うので、数日前にも電話をしてこれから50周年委員会と話しをしてくださいねと話をしました。それで人数とホテルの

話もできました。ここで漢城クラブには伝手がありますが西門クラブには伝手がありません。委員会に連絡をお願い致しましたので私の知らないところで話が進んでいるのだろうと判断しています。招待状を送っただけでよしとするのは納得できなくて、心からのおつき合いはできないと思います。今回西門から46周年の招待状がきました。きちんとして日本語で書かれてきています。こういう部分が思いやりだと思います。親しくしている両クラブなので中国語でも韓国語でも受け取る方は気持ちがいいと思います。できる人がいなければ私がやります。中国人も韓国人も友達がいるので訳してもらい送ってもいいです。思いやりがなければ姉妹クラブをやる意味がないと思うんです。うまくこれからもおつき合い出来るよう善処をお願いします。

## 50周年実行委員会 横山俊夫副実行委員長

周年の当日はロータリーバッチと50周年バッチは付けてきて下さい。8月の時点でクラブの記念バッチが皆さんに既にお渡ししてあります。来週は創立50周年の全体の流れということで例会を使わせてもらうことになっていますのでまたその時に議論いただければと思います。

## 卓話者の紹介 横山俊夫会員

川崎市立南大師中学校

特別活動指導主任・総合的な学習の時間推進副主任  
矢坂健太郎先生

平成3年生まれ

主な略歴：平成30年4月より4年間、市立南生田中学校（多摩区）研究主任として、持続可能な開発目標（SDGs）、総合的な学習時間などの研究を推し進め、当校をかわさきSDGsゴールドパートナー認証、市環境功労者表彰受賞、時事通信社教育奨励賞〈努力賞〉受賞、第14回キャリア教育優良学校 文科大臣表彰に導く。令和4年4月より市立南大師中特別活動指導主任、総合的な学習の時間推進副主任。

著書 所属団体等

神奈川県公立中学校教育研究会技術・家庭科研究部会事務局会計

○環境エネルギー・ラボ2019Inたかつ

第7回かわさき環境フォーラム 事例報告

○令和2年度文部科学省

「新時代の教育のための国際教働プログラム」(GiFT) 修了

○令和3年度関東・甲信越エネルギー地域教育会議

エネルギー教育セミナー パネリスト

○令和3年度小学生かべ新聞コンテスト 一次審査員

(エネルギー教育推進事業事務局)



卓話 矢坂健太郎先生



1 これより、「総合的な学習の時間を要とした、令和時代の『持続可能な社会の創り手』教育 SDGsにおいて教育が果たす役割」を紹介いたします。

2 皆様、初めまして。私は、南大師中学校から参りました矢坂健太郎でございます。横浜市鶴見区矢向出身で、現在も居住しておりますので、大師地区を含む川崎区の土地勘も多少はございます。横浜市立鶴見工業高校建築科と関東学院大学工学部建築学科を卒業しており、7年間建築を専門的に学んでまいりました。建築関係の方はお解りだと存じますが、建築にもいろいろ専攻がございます。私は、建築や都市の再生計画ということに力を注いでおりました。2013年からは技術・家庭科の教員として宮前区の有馬中学校に着任し、多摩区の南生田中学校を経て、昨年4月より南大師中学校に着任し、ようやく1年が経とうとしています。前任校の南生田中では研究主任として、総合的な学習の時間、キャリア教育、SDGsをはじめ、エネルギー・環境教育の勉強もさせていただきました。このほかには、高等学校工業科の教員免許を保有しています。また、2021年には文部科学省の「新時代の教育のための国際協働プログラム教員交流研修」を修了しており、このとき、本日の紹介にも関係するGiFTの皆様にお世話になりました。短い時間ではございますが、この時間が皆様にとって有意義なものになるように努めますので、よろしくお願いいたします。

3 まずは、教育におけるSDGsの意義についてです。

4 そもそも、SDGsとはなにか、SDGsについては社会で様々な事業に取り組んでいらっしゃる皆様の方がお詳しいことと存じますので、簡単に3分で確認いたしますので、私なりの捉え方とお考えください。SDGsはSustainable Development Goalsのイニシャルで、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。SDGsが国連で採択されたのが2015年のことですから、もう8年も経つわけですが、実際にここまでSDGsの気運が高まったのはここ数年のことです。「2030年までに、誰一人

取り残さない社会を作ろう」と言われている通り、目的地は7年後の2030年です。今年は、2015年から2030年までの真ん中に位置しますので、SDGsの中間地点とも言えます。ポイントとなるのは、「他人ごとではなく、自分ごと。一人ではなく、みんなで」取り組むことです。私たち一人一人が地球に住む市民として、「一人ではできないこともみんなで力を合わせて取り組んでいこう」という思いが込められています。よく、17個の目標が並んでいる図をご覧になると思いますが、SDGsは個別の目標を一個一個見ていくよりも全体の構造を捉えることの方が重要で、例えば目標1から目標7までは社会的側面が強く、目標8から目標11までは経済的側面が強いです。また、目標12から目標15までは環境的側面が強いです。これら社会・経済・環境の均衡を保つ必要があります。1つのみの目標に絞って取り組んでしまうと、「地球には優しいが豊かさはない」などのように、本来SDGsがもつ「普遍的な持続可能性」からは遠ざかってしまいます。それから、これは5つのPと言われる分類ですが、社会的側面が人間のPeople、経済的側面が豊かさのProsperity、環境的側面が地球のPlanetとして、これらの問題の解決を目指すことを通して平和Peaceな世の中が訪れ、そのためにはPartnershipで取り組んでいかなければいけないことを表しています。

5 教育界においては、SDGs以前よりESDという考えがありました。これは日本の環境教育系の研究会から提唱された考えで、Education for Sustainable Development、日本語では「持続可能な開発のための教育」と訳されています。ESDの考え方は、これまで、環境教育や国際理解教育、多文化共生教育など個別に取り組まれていた教育活動を、「持続可能な発展を目指す」という視点で総合的・横断的に捉えることです。現在ではESDは、SDGsの目標4の具体的なターゲットの一つになっていますが、基本的な考え方は変わっていません。なによりもESDは、SDGs提唱の13年も前から我が国で提唱された考え方なので、そういう意味で我が国の教育界にはSDGsが馴染みやすかったのかもしれない。

6 ここ最近の教育界の動向を紹介いたします。2021年に中学校で完全実施となった学習指導要領には、これまで存在しなかった「前文」が掲載されました。そのなかには、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、『持続可能な社会の創り手となることができるようにすること』が求められる」と明記されました。このことにより、全ての小中学校でESDやSDGsの取組を推進することはスタンダードなことになりました。とはいえ、これまでSDGsに取り組んでこなかった学校はどのようにすればよいのでしょうか。

7 小中学校では2000年から段階的に「総合的な学習の時間」が実施されています。ESDやSDGsは、特定の教科のみで取り組むことは難しいとされています。総合的な学習の時間は、図に示すような課題の設定、情報の収集

整理・分析、まとめ・表現の「探究の過程」を繰り返せば、各学校で自由に目標及び内容を設定できるため、学校教育目標に直接迫ることができる時間として注目されています。現場の先生方が、教科の授業のなかで学校教育目標を意識したり、教科の授業のなかでSDGsの内容を展開したりするのは、既存のカリキュラムがあるなかで、実際にはかなり難しいことです。また、総合的な学習の時間の役割をきちんと理解せずに時間を消化してしまっている例も僅かですが見られました。そのため、今後は多くの学校が、総合的な学習の時間を要として、ESDやSDGsの取組を始めることになるでしょう。

8 次は、川崎市の教育の特徴を紹介いたします。

9 川崎市立学校では「かわさき教育プラン」に則った教育活動を展開しています。私たちの教育プランの基本理念は「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」ことです。基本目標は「自主・自立」「共生・協働」の2つで、実はこの目標はSDGsとの親和性が高いとされています。なぜなら、SDGsの考え方である「他人ごとではなく自分ごと」は〈自主・自立〉、「一人ではなくみんな」は〈共生・協働〉につながるからです。かわさき教育プランには7つの施策があり、その一丁目一番地である「人間としての在り方生き方の軸をつくる」の項目では、川崎市版のキャリア教育を各学校で展開しています。

10 川崎市では、「個性を生かした『キャリア在り方生き方教育』の取組」を推進しています。一般的なキャリア教育は、社会的・職業的な自立を目指す教育分野ですが、それに「わたしたちのまち川崎」という地域の視点を加えたものが、川崎市版のキャリア教育ともいえる「キャリア在り方生き方教育」です。キャリア教育で目指す〈自立〉の考え方は、「社会の一員として主体的に生きていくこと」です。この考え方もSDGsとの親和性が高いため、川崎市の教育では、一人一人の持ち味や個性を発揮することをとても大切にしています。

11 ここ数年、「かわさきSDGsパートナー」として教育活動に取り組む学校が増えています。その背景には、川崎市が「SDGs未来都市」として政府に選定されていることがあげられます。これを受けた「川崎市SDGs推進方針」によると、「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」を目指すことになっており、この方針のねらいは「多様性を原動力に、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すこと」となっています。多摩区の柘形中学校や、私も研究に携わった南生田中学校、中原区の平間小学校などが、「かわさきSDGsパートナー」として特に先駆的な取組を推進しており、文部科学省の「キャリア教育優良学校表彰」を受けたり「ユネスコスクール」に加盟したりするなど、全市的にも模範的な実践として注目されています。このように、本市ではSDGsに教育課程全体で取り組む学校が増えています。

12 続いて、南大師中のSDGs授業の取組を紹介いたします。

13 南大師中は1954年に創立し、来年創立70周年を迎える歴史のある学校です。学校教育目標には、「科学的」「働く意欲」「世界の人々」などの言葉が掲げられており、学区の一部に京浜工業地帯を擁し、多様性のまち川崎に存する学校らしい目標になっています。一学年3クラス程度の学校規模は、全市的には小規模から中規模の学校とされています。

14 2022年から始まった地域の寺子屋事業「寺子屋みなみかぜ」では、毎週水曜日の夜6時から地域の大学生や教員OBを「寺子屋先生」として招聘し、中学生が学習面のサポートを受けられる場所を提供しています。現在、ひとクラス近くの中学生が登録しており、市内の同様な取組をしている他の寺子屋と比較しても、かなり規模が大きくなっており、賑わいを見せています。また、学習中の雰囲気は真剣そのもので、一人一人が目的意識をもって参加していることが伺えます。

15 市内の中学校では、「南大師中といえば『平和学習』の学校だ」と言われています。その所以は、2020年・2021年度の2年間、「平和学習研究推進校」として教育委員会の指定を受け、学校教育全体で平和学習の取組を推し進めていたからです。現在、研究指定は終了しましたが、市内でも珍しい広島への修学旅行訪問など、南大師中の「平和学習スタンダード」は引き続き取り組まれており、ここ数年のSDGsの気運を受け、輪をかけて進化を遂げようとしています。〈平和〉はSDGsの目標の一つであると同時に、5つのPの一つにも数えられます。本校では、「争いをなくし、戦争や暴力、迫害のない世界を作ろうとする生徒の育成」を目指しています。そのため、身近ないじめや人権侵害を根絶することはもちろんのこと、相談室の設置による登校支援や学習支援を含む支援教育や、国際教室の設置による本邦外とつながりのある子供との多文化共生や国際理解の考えをととても大切にしています。

16 さて、本日お話しさせていただいている、ここ川崎大師ロータークラブの皆様の取組の一環としてご支援いただき、2022年11月、「SDGsカードゲーム」を通じた特別授業を全学年で実施しました。授業をファシリテートくださったGiFTの皆さんは、様々な団体との協働によるGlobal Citizenship 地球志民教育やSDGs教育の普及に取り組む一般社団法人で、冒頭述べた通り、私自身も文部科学省の研修でお世話になった団体でもあります。SDGsカードゲームは、現在から2030年までの道のりを体験するプログラムになっており、与えられた資金と時間を有効に使いながら、社会・環境・経済の三側面の課題を解決し、プロジェクトを成功へと導くゲームです。

17 実際にゲームを体験した子供たちからは、「今ある問題を、自らの行動で解決につなげていけるようにした



い」「まずは日本の現状を理解し、前向きな姿勢で取り組んでいきたい」「みんながよい世界にしようと世界のことを考えない限り、SDGsは達成できない」「SDGsとは、地球の平和を保つために大切だ」などのように、カードゲームの体験を通してきちんとSDGsの考え方が浸透していることがよくわかります。

18 後述いたしますが、今、学校現場には「社会に開かれた教育課程」ということが求められています。本実践も、地域教育会議の大人会議に位置付け、広く授業公開いたしました。そこで感想からは、「SDGsを学ぶ姿を見て感動を覚えた」「大人として自らもSDGsに取り組みたい」「体験して、楽しみながら、感覚的にSDGsを理解するのに打ってつけの活動」「経済を優先すれば環境破壊や社会問題が起こり、お金と時間が足りなくなる。未来の社会を考え、学ぶことは大切」などの肯定的な意見が多数寄せられました。

19 ところで、このカードゲームでは17のゴールの一つ一つをあまり意識していません。果たして、17のゴールを覚えることが、SDGs学習につながるのでしょうか。私は、基本的には覚える必要はないと考えています。まずは、SDGsを学ぶきっかけとして一つ一つの目標に取り組むことはありますが、最終的には「誰一人取り残さない社会」をつくるのが大事になってきます。そのために、個別具体の目標より、概念的な知識としてSDGsを本質的に理解する必要があります。今回のSDGsカードゲームもそうですが、川崎市が推進するキャリア在り方生き方教育や、本校で推し進めている平和学習などの取組は、SDGsの本質的な理解に、有効かつ効果的であると考えています。では、SDGsの本質的な理解につながるポイントとは一体なんなのでしょうか。

20 それは、「問題発見」と「課題解決」であります。私たち人類は歴史のなかで、飢えや寒さなど多くの困難を克服してきました。それでは、現代の困難とはなんのでしょうか。新型コロナウイルスでしょうか、それとも非平和な世界情勢でしょうか。私は困難を克服するヒントは、問題発見と課題解決であると思っています。これまで私たち人類は、生活や社会のなかから問題を発見し、自ら課題を設定し、その解決を目指すことによって、よりよい社会を築いてきました。「クラスや生徒会活動で取り組める、誰一人取り残さない社会を構築するための企画を考えたい」「他人ごとではなく自分ごととして捉え、一人で取り組むのではなくみんなで取り組むのがSDGs」これらはSDGs学習を終えたあとの子供たちの声です。SDGsにおいて教育が果たす役割は、「子供たちが、地域や社会の『困難』に気付く力を育む」ことだと私は考えます。そのために、学校と地域社会が連携・協働して、その「気付く力」を育む手助けをすることが有効だと思います。

21 このような考え方を「社会に開かれた教育課程」と言います。これは、私が南生田中で研究主任を務めているときに全市に発信した内容ですが、「何ができるよう

になるか」の視点で〈ESD, SDGsの実践〉を進めます。また、「何を学ぶか」の視点で外部リソースを活用し、〈令和時代の持続可能な社会の創り手〉を育成します。ここは、地域社会の役割です。そして、「どのように学ぶか」の視点で、私たち教師が〈教育のプロ〉として教育課程を外側に開いていきます。つまり、同じ学習目的をもって、学習内容を地域社会が担い、学習方法を学校が担い、相互に連携・協働することにより、学校と地域はこれまで以上に縫い目のないシームレスな関係を目指せると考えています。

22 「『持続可能な社会の創り手』育成のために、学校と地域社会はシームレスな関係に」これが、私ども教育に携わる者が地域社会の皆様をお願いしたいことでございます。これまで以上に学校は地域社会の力を必要とするでしょう。学校と地域が車の両輪のごとく教育活動を展開していくことを願っています。拙い発表ではございましたが、長時間にわたるご清聴ありがとうございました。

謝辞 炭谷博功会長

矢坂先生、どうもありがとうございました。SDGsについての学校教育からの側面を詳しく説明いただきました。私たちは学校教育支援として11月19日土曜日に南大師中学校に全校生徒にカードゲームを通じてやらせていただきました。その節はどうもありがとうございました。

案内 横山俊夫会員

お手元にある資料は先生がお作りいただいて準備をされました。その中に昨年タウンニュースに掲載されたもの、1月6日南大師中学校区地域教育会議で出されました地域教育会議だよりに当クラブ社会奉仕委員長の宮崎眞一さんの写真が掲載されております。どうぞご覧になっていただきたいと思っております。私も含めて言葉だけならわかっていたけれど中身が充分にわかっていたのかなと思っておりました。今日はありがとうございました。

日時：2023年2月8日(水)

**休会**です。

日時：2023年2月15日(水)

通常例会です。

会員卓話

町田 喜江会員・佐藤和義会員



八尋 匡彦／竹中 裕彦／大崎 克之／檜山 雄彦